

耶穌降生千八百八十七年

米國聖書

舊約聖書
新約全書
新舊約全書

明治二十年

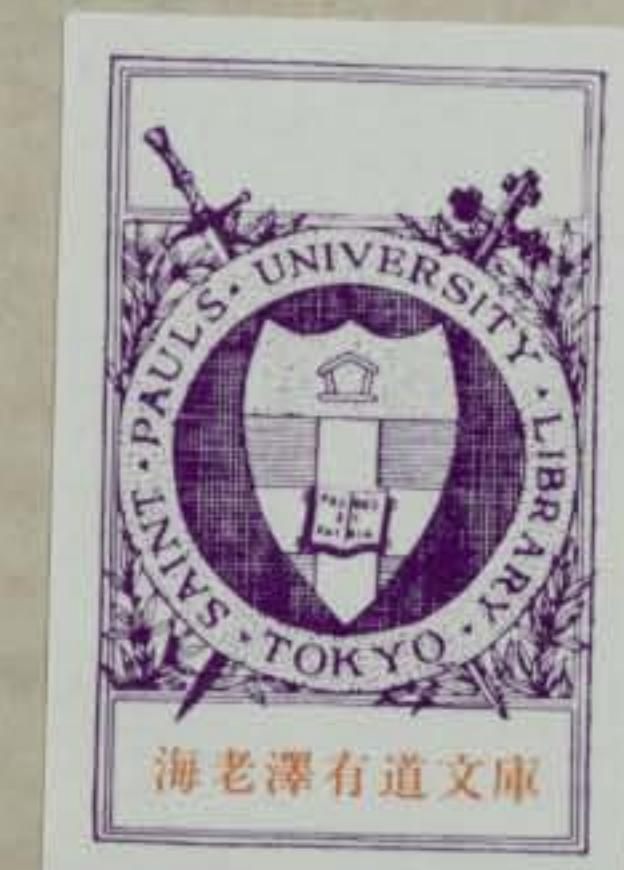
日本横濱印行

02-KI

海老澤文庫

歷代志畧

第一回
ダビデの子ソロモン堅くろの國にたてり、ろの神エホバ
これとよもに在して之を甚だ大ならしめたよひきニ茲ふソロモ
ンイスラエルの一切の人々すなはち千人の長、百人の長、裁判人な
らびにイスラエルの全地の諸の牧伯等宗家の長、必ずに告る所あ
りニ而してソロモンおよび全會衆ともにギベオンなる崇邱ふ往
りエホバの僕モーセが荒野にて作りたる神の集會の幕屋かしこ
にあれべなり四されど神の契約の置はダビデすでふキリアテヤ
リムよりこれづ爲ふ備へたる處ふ携へ上りダビデ曩にエルサレ
ムにて之づ爲に幕屋を張まふけたりき五またホルの子ウリの子
なるベザレルが作りたる銅の壇彼處にあいてエホバの前六即ちソロモ
ン彼の前ありゆき集會の幕屋の中にあるエホバの前なる銅の壇に就つ
處ふ上りゆき集會の幕屋の前あるソロモン彼の前



き燔祭一千を其上に獻げたり。セロの夜神ソロモンが顯れてこそ
神に申しあるは汝は我父ダビデに大なる恩恵をほどこし。又我を
して彼に代りて王とならしめたまへり。今エホバ神よ願くは我を
父ダビデに宣ひし事を堅うしたまへり。今エホバ神よ願くは我を
の民の上に我を王となしめたまへり。我の此民の前に出入する
事を得んため。我の智慧と知識とを與へたまへ斯のごと
き大なる汝の民を誰う鞠きえんや。神ソロモンに言たまひける
は此事なんちの心にあり汝の富有をも財寶をも尊貴をも汝を惡
む者の生命をも求めずまた壽長からんことをも求めず。惟智慧と
知識とを己のためにもとめて我が汝を王となしめたる我民を鞠の
んどすれバ。士智慧と知識は已に汝に授かより、我また汝の前の王
等の未だ得たること有ざる程の富有と財寶と尊貴とを汝ふ與へ
る。

ん汝の後の者もまた是のごときを得ざるべし。斯てソロモンは
ギベオンの崇邱を去り集會の幕屋の前を去りてエルサレムに歸
りイスラエルを治めたり。○十四ソロモン戰車一千四百輛騎兵一萬二千人ありき。ソロモンこれを戰車の邑
々に置き又エルサレムにて王の所に置り。十五王銀と金とを石の
とくエルサレムに多うらしめまた檜樹を平野の桑樹のふとく多
くからしめたり。ソロモンの有る馬は皆エシブトよりひききたを
り王の商賈一群一群となして之を取いだして携へ。上る戰車一輛は銀六百馬一
匹は百五十なり。是のごとくヘテ人の諸の王等およびスリアの
王等のためにもろの手をもて取いだせり。茲にソロモンエホバの名のために一の家を建て、また己の國のために一の家を建んとしニソロモンすなはち荷を負べき

父ダビデが備へあきたるユダとエルサレムのわび工人ともに
操作しめよハ請ふ汝また檜樹、松木および白檀をレバノンより我
にふく色、我なんちの僕等がレバノンにて木を研ることを善する
を知るなり、我僕また汝の僕と共に操作べし。是のごとくして我
ために材木を多く備へしめよ、其れ我ダ建んとする家の高大を極
むる者あるべタ色バなり。我の木を研る汝の僕に搗麥二萬石、大
麥二萬石、酒二萬バテ油二萬バテを與ふべし。是ふおいてツロ
書をソロモンにふくりて之に答へて云ふエホバの
民の王を愛する故に汝をもて之が王となせりと。是
るハ天地の造主なるイスラエルの神エホバの
ビテ王に賢き子を與へて之に分別と才智とを賦け之をしてエホ
バのため家を建てまた己の國のため家を建て
るハ天に彼のダ

西彼はダンの子孫たる婦の産る者にて其父はツロの人なる。お金銀銅鉄木石の細工。および紫布、青布、細布、赤布の織法に精しく又能く各種の雕刻を爲し奇巧を凝して諸の工をなすあり、然べ彼を用ひてあんちの工人あよび汝の父わが主ダビテの工人ともに操作しきめよ。是については我主の宣まへる小麦、大麥、油、および酒をろ。僕等に遣りたまへ。汝の凡て需むるごとく我らレバノンより木を研いだしこれを筏にくみて海よりヨツバにあくるべけれ。汝の父ダビテの核數し。ごとくイスラエルの國にをる異邦人をシろの父ダビテの核數みるに合せて十五萬三千六百人ありけども。テとく核數みるに合せて十五萬三千六百人ありけども。この七萬人をもて荷を負ふ者となし、三千六百人をもて民を操作かしむる監督者となせ

卷二十一

ニモニンエサリノヨリ

ふれを蔽ふうの金六百タラント九ろの釘の金ハ重五十シケル、また上の室も金にて覆ふナまた至聖所の家の内に刻鏤めたる二のケルピムを造り金をてきに覆ふナうのケルピムの翼は長二十キユピト、此ケルピムの一の翼ハ五キユピトにして家の壁に達し、他の翼も五キユピトにして彼のケルピムの翼ふ達すまた彼ケルピムの一の翼は五キユピトにして家の壁に達し、他の翼も五キユピトにして此ケルピムの翼と相接はる是等のケルピムの翼はうの舒ひろがる事二十キユピト、共にうの足ふて立ち、幕を作り、ケルピムをうの上に繡ふナまた家の前に柱二本を作る、の高ハ三十五キユピト、うの頂の頭ハ五キユピト夫また家の前に柱二本を作り、鍵索を之に繞らしてこれを柱の頂に施し、石榴一百をつくりてうの鍵索の上に施す七この柱を拜殿の前に立て一本を右

名く
に一本を左に置ゑ、右なる者をヤキンと名け、左なる者をボアズと

第三章 ハツロモンまた銅の壇を作り、うの長二十キユピト、潤二周圍にハ三十キユピトにしてうの周圍ハ圓くうの高ハ五キユピト、うの下に之牛の像ありてうの周圍を繞る、即ち一キユピトに十宛ありて海の周圍を繞色り、此牛は二行にしテ海を鑄る時に鑄付たるなり、その海は十二の牛の上に立り、うの三之北にむかひ、三之西にむうひ、三は南にむかふ、うの厚之手寬、うの邊は百合花形にして杯の邊のみな内に作より、是は三千バテを受容る、彼また洗盤十箇を作りて五箇を右に五箇を左に置たり是のものを洗ふ所にして、燔祭の品をうの

モソン民をろの天幕ふ歸せり、皆エホバのダビテ、ヨロモンおよびそ
の民イスラエルに施てししたまひし恩恵のためニ喜みび且心に樂
しみて去り○サソロモンエホバの家と王の家とを造了ヘエホバ
の家と己の家とにつきて爲んと心に思ひし事を盡く成就たり
時にエホバ夜ソロモンに顯れて之に言たまひけるて我すでに汝
の祈禱を聽きまた此處をわざためふ選みて犠牲を獻ぐる家とな
すまた我天を閉て雨あらぬめ又之盜賊ふ命じて地の物を食は
め又ハ疫病を我民の中ふあくらんふ西我名をもて稱らるゝ我民天
より聽てろの罪を赦しろの地を醫さん十五より我此家を選びかつ
名ハ永く此あるべし、また我目もわざ心も恒に此あるべしセ
汝もし汝の父ダビテの歩みしがとく我前に歩み我わ汝ふ命じた
るごとく凡て行ひてわざ法度と律例を守らば十六我わ汝の父ダビ
テに契約してイスラエルを治むる人汝に缺ること無るべしと言ひ
汝らの前に置たる法度と諷命を棄て往て他の神々に事へかつ之
しごとく汝の國の祚を堅うすべし十九然と汝ら若ひるがへり我わ
汝を拜まセニ我かれらを我わ與へたる地より抜さるべし、又我わ名
ために我が聖別たる此家に我これを我前より投棄て萬國の中ふ
諺語とあり嘲笑となら玄めんニ且又この家の高くあきせも終ふ
はるの傍を過る者ハ皆ふれに驚きて言んエホバ何故に此地に此
家に斯なしたるやど三人これに答へて言ん彼ら己の先祖をエシ
ブトの地より導き出しきろの神エホバを棄て他の神々ふ附従の
ひ之を拜み之に事へしふよりてあり、エホバ之がためふこの諸の
災禍を彼らふ降せりと

第八章
モソン二十年を経てエホバの家と己の家を建をれり
の家と己の家とにつきて爲んと心に思ひし事を盡く成就たり
時にエホバ夜ソロモンに顯れて之に言たまひけるて我すでに汝
の祈禱を聽きまた此處をわざためふ選みて犠牲を獻ぐる家とな
すまた我天を閉て雨あらぬめ又之盜賊ふ命じて地の物を食は
め又ハ疫病を我民の中ふあくらんふ西我名をもて稱らるゝ我民天
より聽てろの罪を赦しろの地を醫さん十五より我此家を選びかつ
名ハ永く此あるべし、また我目もわざ心も恒に此あるべしセ
汝もし汝の父ダビテの歩みしがとく我前に歩み我わ汝ふ命じた
るごとく凡て行ひてわざ法度と律例を守らば十六我わ汝の父ダビ
テに契約してイスラエルを治むる人汝に缺ること無るべしと言ひ
汝らの前に置たる法度と諷命を棄て往て他の神々に事へかつ之
しごとく汝の國の祚を堅うすべし十九然と汝ら若ひるがへり我わ
汝を拜まセニ我かれらを我わ與へたる地より抜さるべし、又我わ名
ために我が聖別たる此家に我これを我前より投棄て萬國の中ふ
諺語とあり嘲笑となら玄めんニ且又この家の高くあきせも終ふ
はるの傍を過る者ハ皆ふれに驚きて言んエホバ何故に此地に此
家に斯なしたるやど三人これに答へて言ん彼ら己の先祖をエシ
ブトの地より導き出しきろの神エホバを棄て他の神々ふ附従の
ひ之を拜み之に事へしふよりてあり、エホバ之がためふこの諸の
災禍を彼らふ降せりと

なりけれどなり、^{十五}祭司とレビ人は諸の事につきまた府庫の事に
つきて王に命ぜられたる所に違ざりき。サロモンはエホバの家
の基を置る日までにろの工事の準備をことごく爲しあきて遂
に之を成をへたれバエホバの家の全備せり○^{十七}茲にサロモンエ
ドムの地の海邊にあるエジオングベルおよびエロテに往り。^{十八}時
ふヒラムの僕等の手に託して船を彼に遣りまた海の事を知る僕
等を遣りけるが彼等すなはちソロモンの僕とももにオフルに往
て彼處より金四百五十タラントを取てソロモン王の許に携へ來
れり

第九章

を之の王となして公平と公義を行はせたまふなりとれすなはち
 金百二十タラントおよび莫大の香物と寶石とを王に饋乞り、シバ
 の女王ソロモン王に饋りたるが如き香物の赤朶曾て有さりし
 あり（のオフル）より金を取たりシヒラムの臣僕とソロモン
 の臣僕等また白檀木と寶石とをも携さへいたりけれど王の
 白檀木をもてエホバの家と王の宮とに段階を作りまた謳歌者の
 見しこと無りき○ソロモン王シバの女王に物を饋りてろの携へ
 ため琴と瑟とを作れり是より前あは是のごとき者ユダの地に
 もる者を與へたり斯て彼らの臣僕ともに去てろの國に還り
 きたれる所に報いたるが上にまた之の望にまゐせて凡てろの求
 ぬ○十三年にソロモンの所に來れる金の重量は六百六十六タラ
 ントなり此の外ふゆた商賈および商旅の携へきたる者ありア
 ラビアの一切の王等かよび國の知事等もまた金銀をソロモンに
 携へ至れり十五ソロモン王展金の大櫃二百を作れりの大櫃一枚
 千一枚にハ展金六百シケルを用ふまた展金の小千三百を作れり其
 にハ一枚にハ金三百シケルを用ふ王これらをレバノン森の家に置け
 に連あうの坐する處の此旁に又金の足臺一を造り純金をもて之を蔽へ
 りハその寶座にハ六の階級あり又金の足臺ありて共にうの寶座
 の獅子立を三十九の六の階級に十二の獅子ありて扶手の側に二頭
 り、是のごとき者を作れる國ハ未だ曾て有さざしなリソロモン
 王の用ゐる飲料の器ハ皆金などまたレバノン森の家の器もこど
 タルシシよア金銀象牙猿を載て來りたればあるまゝ算さりしなリソロモン
 ハ王の舟ヒラムの僕を乗てタルシシふ往き三年毎に一回うの舟
 ロモン王天下の諸王に勝りて富と智慧とをもちたればあリミソロモン

を之の王となして公平と公義を行はせたまふなりとれすなはち
 金百二十タラントおよび莫大の香物と寶石とを王に饋乞り、シバ
 の女王ソロモン王に饋りたるが如き香物の赤朶曾て有さりし
 あり（のオフル）より金を取たりシヒラムの臣僕とソロモン
 の臣僕等また白檀木と寶石とをも携さへいたりけれど王の
 白檀木をもてエホバの家と王の宮とに段階を作りまた謳歌者の
 見しこと無りき○ソロモン王シバの女王に物を饋りてろの携へ
 ため琴と瑟とを作れり是より前あは是のごとき者ユダの地に
 もる者を與へたり斯て彼らの臣僕ともに去てろの國に還り
 きたれる所に報いたるが上にまた之の望にまゐせて凡てろの求
 ぬ○十三年にソロモンの所に來れる金の重量は六百六十六タラ
 ントなり此の外ふゆた商賈および商旅の携へきたる者ありア
 ラビアの一切の王等かよび國の知事等もまた金銀をソロモンに
 携へ至れり十五ソロモン王展金の大櫃二百を作れりの大櫃一枚
 千一枚にハ展金六百シケルを用ふ王これらをレバノン森の家に置け
 に連あうの坐する處の此旁に又金の足臺一を造り純金をもて之を蔽へ
 りハその寶座にハ六の階級あり又金の足臺ありて共にうの寶座
 の獅子立を三十九の六の階級に十二の獅子ありて扶手の側に二頭
 り、是のごとき者を作れる國ハ未だ曾て有さざしなリソロモン
 王の用ゐる飲料の器ハ皆金などまたレバノン森の家の器もこど
 タルシシよア金銀象牙猿を載て來りたればあるまゝ算さりしなリソロモン
 ハ王の舟ヒラムの僕を乗てタルシシふ往き三年毎に一回うの舟
 ロモン王天下の諸王に勝りて富と智慧とをもちたればあリミソロモン

下の諸王みな神がシロモンの心に授けたまへる智慧を聽んとて
 シロモンの面を見んことを求め西各々うの禮物を携さへ来る即ち
 銀の墨、金の墨、衣服、甲冑、香物、馬、驃など年々定分ありき○二五シロ
 モン戦車の馬四千廄、騎兵一萬二千あり、王これを戦車の邑々に置
 きまたエルザレムにて自己の所ふ置り云彼の河よりベリシテの
 地とエシプロトの界までの諸王を統治めたり云王の銀を石のごと
 くエルサレムに多からしめ、また檜樹を平野の桑木のごとく多
 くエラしめたり云また人衆エシプロトなぞの諸國より馬をシロモンに
 の書とシロ人アヒヤの預言と先見者イドガチバテの子ヤラベア
 ムに刊きて述たる默旨の中記するにあらずや三十シロモンの
 モンの先祖等と俱に寝りてろの父ダビデの全地を治めた是三十
 エルサレムにて四十年の間イスラエルの邑に葬らき其の子レ
 ハベアムこれに代りて王とあれり
 爰にレハベアムとイスラエルの人を遣ひして之を招ひたる
 王となさんとてシケムに到りたればなしニ子バテの子ヤラベア
 ムひさだにシケムに往り、其のイスラエルの輶を苦しくせり、然バ汝今汝の父に
 とを聞いてエシプロトよ里歸れり三人衆人を遣ひしに逃れ居しがこのて
 なり、斯てヤラベアムとイスラエルの輶を苦しくせり、然バ汝今汝の父に
 語りて言けるい四汝の父我らに蒙むらせたる重き輶を輕かるが故に
 の苦しき役とろの我らに蒙むらせたる重き輶を輕かるが故に
 バ我等あんちに事へん五レハベアムの輶を苦しくせり、然バ汝今汝の父に
 王を経て再び我に來きと民すあそち去り六是にねたる老夫人等に立たる
 ける汝ら如何に歎へて此民に答へしむるや七彼ら等に計りて言ひ
 王の父シロモンの生る間此民を厚く待ひ之を悦ぶをせ善言を之れ
 に語りて言ひ
 第十章
 第十一章

ハベアムこれに代りて王とあれり
 爰にレハベアムとイスラエルの輶を苦しくせり、然バ汝今汝の父に
 王となさんとてシケムに到りたればなしニ子バテの子ヤラベア
 ムひさだにシケムに往り、其のイスラエルの輶を苦しくせり、然バ汝今汝の父に
 とを聞いてエシプロトよ里歸れり三人衆人を遣ひしに逃れ居しがこのて
 なり、斯てヤラベアムとイスラエルの輶を苦しくせり、然バ汝今汝の父に
 語りて言けるい四汝の父我らに蒙むらせたる重き輶を輕かるが故に
 の苦しき役とろの我らに蒙むらせたる重き輶を輕かるが故に
 バ我等あんちに事へん五レハベアムの輶を苦しくせり、然バ汝今汝の父に
 王を経て再び我に來きと民すあそち去り六是にねたる老夫人等に立たる
 ける汝ら如何に歎へて此民に答へしむるや七彼ら等に計りて言ひ
 王の父シロモンの生る間此民を厚く待ひ之を悦ぶをせ善言を之れ
 に語りて言ひ
 第十一章
 第十二章

くしたりしが我れ更に之を重くせん我父鞭をもて汝らを懲せ
しが我れ蠍をもて汝らを懲さんと十五王かく民に聽ことをせさり
た此事の神より出たる者にしてろの然るハエホバかつてシロ人
アヒヤによりテ子バテの子ヤラベアムに告たる言を成就んがた
めあり十六イスラエルの民みな王の己に聽ざるを見しかセ王ふ答
へて言けるハ我らダビデの中に何の分あらんやエッサイの子の中
にハ所有あしイスラエルよ汝ら各々の天幕に歸れダビデ族よ
但しユダの邑々ふ住るイスラエルの子孫の上にハレハベアムな
ほ王たりき十八レハベアム王役夫の頭なるアドラムを遣てしタる
ふイスラエルの子孫石をもてこれを擊て死しめたれをレハベアム
ハ王急ぎてろの車ふ登りてエルサレムふ逃のへれり十九是のとど
くイスラエルハダビデの家ふ背きて今日もいいたる

第十一章
サムヤに臨みて云ふミロモンの子ユダの王レハベアムより
シマヤに歸さんためおイスラエルと戰ひんとせしエホバは言神の人
ユダとベニヤミンにあるイスラエルの人々に告て言べし四エホ
バかく言いふ汝ら攻上るべからず又なんぢらの兄弟と戰ふべから
ず各々の家に歸れ此事は我より出たる者なりと彼ら乃是ちエ
ホバの言に玄たびひヤラベアムに攻ゆくとを止て歸れり五斯
てレハベアムエルサレムに居りユダに守衛の邑々を建たり六即
ちうの建たる者はベテレヘムエタムテコアセベテズルシヨコア
ドラムハガテマレシヤジフ九アドライムラキシアセカナゾラア
ヤロンヘブロン是等はユダとベニヤミンにありて守衛の邑なり
士彼ろは守衛の邑々を堅固あし之ふ軍長を置き量食と油と酒と
ラベアムとうの子等からを離れてユダとエルサレムに至れり是レヒ人
の郊地と産業とを離れテレハベアムふ投す即ちレヒ人
らしむユダとベニヤミンこれに附り十三イスラエルの全地の祭司
とレビ人ヘブライ人の四方の境より來りテレハベアムふ投す即ちレヒ人
のためお自ら祭司を立つ十六またイスラエルの神エホバを崇邱と牡山羊と己の作れる犧
しめざりし故なり十五ヤラベアムヤラベアムの神エホバエルの神エホバの職をエホバの前ふ爲
凡てうの心を傾ひけてイスラエルの神エホバを求むる者いのうの
先祖の神エホバに禮物を献げんとてレビ人に玄たびひテエルサ
レムふ至れり十七是のとく彼等ユダの國を堅うしミロモンの子エレ
レハベアムをして三年の間強から玄めたり即ち民は三年の間アヒダフ
ビデミロモンの道に歩めり○十八レハベアムはダビデの子エリヤ
モテの女マハラテを妻に娶れりマハラテエツサイの子エリア

アの女アビハイルの産し者なり。彼エウシ、シャマリヤもよびザハムの三子を産む。また之ダ後にアブサロムの女マアカを娶れり。彼アビヤ、アツタイ、シザもよびシロミテを産む。レハベアムはアブサロムの女マアカをうの一切の妻と妾とにまさりて愛せり。彼は妻十八人妾六十人を取り、男子二十八人、女子六十人を擧ぐ。レハベアムマアカの子アビヤを王となさんと思ふ。故に之を立て首となし。兄弟の長とあせり。三斯る故に慧く取行ひ其の男子等を盡く。ユダとベニヤミンの地ある守衛の邑々に散し置き之に糧食を多く與へる。つ衆多の國を固くしろの身を強くするに及び。第十一章一レハベアムの國を固くしろの身を強くするに及びてエホバの律法を棄たり。イスラエルミナ之に徳ふニ彼ラスエホバにむかひて罪を犯すによりてレハベアムの五年にエジプトの王シシヤクエルサレムに攻のぼり。三の戰車は一千二百騎兵。

ハ六萬、また彼に従ぐひてエジプトより來れる民ルビ人、スキ人、エテオピア人等は數えず。彼すなむちユダの守衛の邑々を取り進みてエルサレムに至る。是にあいてレハベアムふよびユダの牧伯等シシヤクの故ふよりてエルサレムに集まり居たるふ預言者シマヤ。これグ許ふいたりて之に言ける。エホバは義と申す少く拯救を彼らに施ふさん。我シシヤクの手ふ遣あけり。是をもてイスラエルの牧伯等あよび王の自ら卑くしてエホバは義と申す。我に事ふる事と國々の王等ふ事ふる事との辨を志らん爲あり。エルサレムに渡さじ。然なむら彼等は之ダ臣とならん。是彼らがいに怒を。エジプトの王シシヤクすなはちエルサレムに攻のぼりエホバ

ンの家の寶物と王の家の寶物とを奪ひて盡くふ色を取り又ソロモ
ンの作りたる金の櫃を奪ひさきり + 是をもてレハベアム王ろの
代ふ銅の櫃を作り王の家の門を守る侍衛の長等の手にこれを交
し置けるが士王エホバの家に入れる時は侍衛きたりて之を負ひ
また侍衛の房にこれを持かへれりナニレハベアム自ら卑くしたれ
をエホバの忿怒からを離れこれを盡く滅ばさんとの爲たまゝす
ユダふも善事ありき○十三レハベアム王のエルサレムふありて
ろの力を強くし世を治めたり即ちレハベアム王のエルサレムふ
位に即き十七年の間エルサレムにて世を治む是すなはちエホバ
の名を置んとてイスラエルの一切の支派の中より選びたま
る邑なり彼の母のアンモニ人ふしてろの名をナアマといふ古
レハベアムのエホバを求むる事ふ心を傾むけずして惡き事を行
なへり十五レハベアムの始終の行爲は預言者シマヤの書ふよび先

見者イドの書の中ふ系圖の形に記さるゝに非すや、レハベアムと
ヤラベアムの間には絶す戰爭ありき十六レハベアムの先祖等と
もに寝りてダビデの邑ふ葬られ其子アビヤ之にかはりて王と
なれり

第十二章 ヤラベアム王の十八年にアビヤユダの王となりニエ
ルサレムにて三年の間世を治めたり、其母ギベアのウリエルの
女にして名をミカヤといふ。茲にアビヤとヤラベアムの間に戰爭
ありミアビヤれ四十萬の軍勢をもて戰門に備ふ、是みな倔強の猛
き武夫なり、又ヤラベアムは偉強の勇士なり、八十萬をもて之にむかひて
戰争の行伍を立つ、是また大い勇士也。四時にアビヤエフライムの
山地なるセマライム山の上に立て言けるはヤラベアムおよびイムの
大ラエルの人々皆聽よ五汝ら知らずやイスラエルの神エホバ鹽の
契約をもてイスラエルの人民皆聽けよ五汝ら知らずやイスラエルの
孫に賜へり六

第十三章

歷代志畧下

第十三章

自十六至十二章六節

三十九

の案つくゑの上うへに供そなへまた金きんの燈臺とうだいとろの燈蓋とうしひさうを整そとのへて夕ゆふごとに點ともす
あり、斯かくわれらは我われらの神かみエホバの職つむ守まもを守まもれども汝われらは却かへて彼かれ
を棄きたり十三さん視みよ神かみみづから我われらととももふ在いはして我われらの大だい將しよとあ
りたまふ、また其その祭さい司し等どもは喇叭はりを吹ふきならして汝われらを攻せむ、イスラエ
ルの子孫こくよ汝われらの先祖せんその神かみエホバに敵てきして戰たたかふ勿なまく汝われら利りあら
ざるべきべきをありと十三さんヤラベアム伏兵ふくひんを彼かれらの後うしろに回まわらせたれ
ぞイスラエルはユダの前まへにあり伏兵ふくひんは其その後うしろにあり十四じゆユダ後うしろを顧かへり
みるに敵前後にありけれ必ひエホバにむかひて號呼よせうり祭さい司し等ども喇叭はりを
を吹ふきり十五じゅうごユダの人ひと々ぐぐすあはち吶喊どきのこゑを舉あげけるがユダの人々ひと々ぐぐ吶喊どきのこゑを
擧あげるにあたりて神かみヤラベアムとイスラエルはユダの前まへに打敗うちやぶりたまひし
り逃のがはしれり、神かみかく彼らを夥おび多おおく擊うち殺ころせり、イスラエルの殺ころされて倒たふをゑ者ものとともの民みん彼かれらを夥おび多おおく擊うち殺ころせり、イスラエルの殺ころされて倒たふをゑ者もの

第十五章

て エルサレムに歸りぬ
第十五章 一茲に神の靈オデデの子アザリヤふ臨ミけれをニ彼出
ゆきてアサを迎へ之ふ言けるハアサあよびユダとベニヤミンの
ふ在すベし汝等のエホバと偕ニをる間ハエホバも汝らと偕
すも汝らを棄たまはん三モモイクイスラエルにハ眞の神なく教訓を施
時ル】の神司なく律法なき乙と日久しかりしが四患難の時
に臨ハは出る者エホバに立ちかへりて之を求めるが五當の民
苦しミタまへをなりセ然を汝ら強かれて則ちこれに遇り五當の民
勿れ汝らの行為にハ賞賜あるべけれをなりとハアサこれらの言
あよび預言者オデデの預言を聽きて力を得憎むべき者をユダとベ

ニヤミンの全地より除きまた其エフライムの山地ふ得たる邑々より除きエホバの廟の前なるエホバの壇を再興せり。彼またユダとベニヤミンの人々およびエフライムマセシメオンより來りて寄寓する者を集めたり、イスラエルの人々の中エホバ神のアサと偕もに在すを見てアサふ降きる者夥多うりしなり。彼等すなはチアサの治世の十五年の三月ふエルサレムお集り。其たづさへ來きる掠取物の中より牛七百羊七千をろの日エホバふ獻げ。皆契約を結びて曰く心を盡し精神を盡して先祖の神エホバを求める凡てイスラエルの神エホバを求める者は大小男女の區別なく之を殺さんと。而して大声を擧げ號呼をなし喇叭を吹き角を鳴らしてエホバふ誓を立て。十五ユダみならぬの誓を喜べり、即ち彼ら一心をもて誓を立て一念ふエホバを求めたれをエホバこれふ遇ひ四方ふもいて之ふ安息をたまへり。其儲またアサ王の母マアカをアシラ像を作りしこと有々れをアサこれを貶して太后たら志めす。うの像を砍たふして粉々ふ碎きキテロン川ふてこれを焚り。但し崇邱は尙イスラエルより除かざりき、然そもアサの心は一生の間全のりしあり。十六彼はまたの父の納めたる物および己が納めたる物すなへち金銀ならびふ器皿等をエホバの家に携へいきり十九アサの治世の三十五年までは再び戦争あらざりき。ラマを建たり。是においてアサエホバの家と王の家との府庫より金銀を取りだし。ダマスコふ住るスリアの王ベチハダデふ餽りて言けるは三我父と汝の父の間の如く我と汝の間ふ約を立ん、視約を破り。彼をして我を離れて去玄めよ。四ベチハダデすなぞちア

サ王ふ聽き自己の軍勢の長等をイスラエルの邑々ふ攻遣けれど彼等イヨン、ダン、アベルマイムおよびナフタリの一切の府庫の邑々を撃たり五バアシヤ聞てラマを建ることを罷めその工事を廢せり六是においてアサ王ユダ全國の人を率ゐバアシヤがラマを建るふ用ひたる石と木材を運びきたらしめ之をもてケバミズバを建たり○セロの頃先見者ハナニユダの王アサの許にいたりて之ふ言ける汝はスリアの王ふ倚頼みて汝の神エホバふ倚頼まざりしあ因もてスリア王の軍勢は汝の手を脱せり八のエヲオピア人とルビ人ハ大军ふして戰車および騎兵はなはだ多かりしにあらずや然るも汝エホバふ倚頼ミたれをエホバのれらを汝の手ふ付したまへり九エホバハ全世界を徳く見そなはし己にむくひて心を全うする者のためふ力を顯したまふこは事ふおいて汝の愚ある事をなせり故ふ此後汝ふ戰爭あるべしと十然るアサアサの始終の行為ニダヒスラエルの列王の書ふ記さるナニアサの先祖等と偕に寝りうの治世の四十一年ふ死り古人群これをうの己のためふダビデの邑ふ壙あける墓に葬り製香の術をもて製したる種々の香物を盈せる床の上ふ置き之づために夥しく焚物をなせり

アサの子ヨシヤバテアサふ代りて王となりイスラエルふむかひて力を強くしニユダの一切の堅固なる邑々に兵を置きユダの地およびの父アサが取たるエフライムの邑々ふ鎮臺を置く三エホバヨシヤバテとすもふ在せり其の彼の父ダビデ

サ王ふ聽き自己の軍勢の長等をイスラエルの邑々ふ攻遣けれど彼等イヨン、ダン、アベルマイムおよびナフタリの一切の府庫の邑々を撃たり五バアシヤ聞てラマを建ることを罷めその工事を廢せり六是においてアサ王ユダ全國の人を率ゐバアシヤがラマを建るふ用ひたる石と木材を運びきたらしめ之をもてケバミズバを建たり○セロの頃先見者ハナニユダの王アサの許にいたりて之ふ言ける汝はスリアの王ふ倚頼みて汝の神エホバふ倚頼まざりしあ因もてスリア王の軍勢は汝の手を脱せり八のエヲオピア人とルビ人ハ大军ふして戰車および騎兵はなはだ多かりしにあらずや然るも汝エホバふ倚頼ミたれをエホバのれらを汝の手ふ付したまへり九エホバハ全世界を徳く見そなはし己にむくひて心を全うする者のためふ力を顯したまふこは事ふおいて汝の愚ある事をなせり故ふ此後汝ふ戰爭あるべしと十然るアサアサの始終の行為ニダヒスラエルの列王の書ふ記さるナニアサの先祖等と偕に寝りうの治世の四十一年ふ死り古人群これをうの己のためふダビデの邑ふ壙あける墓に葬り製香の術をもて製したる種々の香物を盈せる床の上ふ置き之づために夥しく焚物をなせり

アサの子ヨシヤバテアサふ代りて王となりイスラエルふむかひて力を強くしニユダの一切の堅固なる邑々に兵を置きユダの地およびの父アサが取たるエフライムの邑々ふ鎮臺を置く三エホバヨシヤバテとすもふ在せり其の彼の父ダビデ

の最初の道ふ歩みてバアル等を求めてす。四ろの父の神を求めてろ。の誠命に歩ミイスラエルの行爲ふ微ひざをぱあり。五みのゆゑふエホバ國を彼の手ふ堅く立たまへり、またユダの人衆ミナヨシヤバテに禮物を餽れり、彼の富と貴とを極めたり。是において彼エホバの道にろの心を勵まし遂に崇邱とアシラ像とをユダより除けり。七彼またうの治世の三年にろの牧伯ベシハイル、オバデヤ、セカリヤ、子タムンエル、烏ヨビミカヤを遣としてユダの邑々にて教誨をなさしめ。八またレビ人の中よりシマヤ、子タニヤ、セバデヤ、アサヘル、セミラモテ、ヨナタン、アドニヤ、トビヤ、トバドニヤなどいふレビ人を遣して之と偕あらしめ且祭司エリシヤマとヨラムをも之と偕に遣へしける。九彼らエホバの律法の書を携へユダにありて教誨をなし。ユダの邑々を盡く行めぐりて民を教へたり。十是においてユダの周圍の地の國々ミナエホバを懼れてヨシヤバテふる。ふるふうの宗家に循へむ左のどし、ユダより出たる千人の長の中ふハアデナといふ軍長あり、大勇士三十萬。これふ従ふ者ハ二十八萬人。まろの次ハシクリの子アマシヤ、彼ハ悦びてろの身をエホバふ獻げたり、大勇士二十萬これふ従ふふそベニヤミンより出たる者の中にハエリアダといふ大勇士あり、弓あよび楯を持もの二十萬。こゑふ従ふ大ろの次ハヨザハア、戰鬥の準備をなせる者十八萬。あれに従ふ大是等ハ皆王ふ事ふる者等なり、此外にまたユダ全國の堅固なる邑々に王

の置る者あり

第十八章

かれ數年の後サマリアに下りてアハブを訪けれバアハブ彼あよ
びうの部從のために牛羊を多く宰りギレアデのラモテに俱に攻
の上らんことを彼ふ勸むニすなれどイエスラエルの王アハブユダの
王ヨシヤバテふ言ける汝我ともにギレアデのラモテふ攻ゆ
くやヨシヤバテこれふ答へける汝の事く我民汝の民
のごとし汝どもふ戰鬥に臨まんとヨシヤバテまたイスラエ
ルの王ふ言タる請ふ今日エホバの言を問たまへと是あおい
てイスラエルの王預言者四百人を集めて之ふ言ける我らギレ
アデのラモテふ往て戰ふべきや又罷べきや彼等いひける攻
の上りたまへ神これを王の手ふ付したまふべきヨシヤバテい
ひける此外ふ我らの由て問べきエホバの預言者此あらざる
せりナ時ケナアナの子ゼデキヤ鐵の角を造りて言けるエホ
バかく言たまふ汝是等をもてスリア人を衝て滅ぼし盡すべしと
士預言者みな斯預言して云ふギレアデのラモテに攻上りて勝利
を得たまへエホバを王の手ふ付したまふべしとナ玆にミカ
ヤを召んとて往たる使者これに語りて言ける預言者等の言ひ

一人の日より出るがごとくにして王に善し、請ふ汝の言をも彼らの
我神の宣ふ所を我陳んとす。くて王に至るに王かれに言ける
ミカヤよ我らギレアデのラモテに往て戰かふべきや又ハ罷ベ
きや、彼言けるに上りゆきて利を得たまへ、彼らハ汝の手に付さ
んと王かれに言けるに我幾度あんちを誓はせたらモ汝エホバ
の名をもて唯眞實のみを我に告るや。彼言けるに我イスラエル
の皆牧者なき羊のごとく山に散るを見るを見たるがエホバ是等の者
の主なし各々やすらかに其家に歸るべしと言たまへり。イスラエル
の王是にあいてヨシヤバテに言けるに我なんちに告て彼は
善事を我に預言せず只惡き事のみを預言せんと言しに非ずや。と
エルミカヤまた言けるに然モ汝らエホバの言を聽べし、我視しにエ
ホバの位に坐し居たまひて天の萬軍うの傍に右左に立をりし
と則ち一い此ごとくせんと言ひ一い彼ごとくせんと言けれど
遂に一の靈すゞを出てエホバの前に立ち我かれを誘そんと言けれど
さればエホバ何をもてするかと之に問たまふにニ我いでよ虚言を
言ふ靈となりてろの諸の預言者の口にあらんと言り、エホバ言た
よエホバ虚言を言ふ靈を汝のての預言者等の口に入れたまへり、而
してエホバ汝に災禍を降さんと定めたまふと三時にケナアナの
途より我を離ゆきて汝と言ふや。ミカヤ言くる汝奥の室に
いりて身を匿す日に見べし云イスラエルの王いひけるエホバの靈何の
を取てて邑の宰アモンおよび王の子ヨアシに曳かへりて言

ベシ云々王のく言ふ我が安然に歸るまで此者を牢にいれて苦惱のパンを食せ苦惱の水を飲せよとモミカヤ言けるれ汝もし眞に平安に歸るならベエホバ我によりて斯宣まひし事あらずと、而してまた言り汝ら民よ皆聽べしと云々うくてイスラエルの王ヨアビユダの王ヨシヤバテはギレアデのラモテに上りゆたり二九イスラエルの王時にヨシヤバテに言けるは我は服装を變て戰陣の中ゐらん汝は朝衣を纏ひたまへとイスラエルの王すなはち服装を變へ二人俱に戦陣の中に入れり三十スリ亞の王うの戰車の長等にかねて命じあけり云く汝ら小き者とも大なる者とも戰ふなかれ惟イスラエルの王とのみ戰へと三戰車の長等ヨシヤバテを見て是しがヨシヤバテ號呼び色ベエホバてを助けたまへり即ち神彼らを感動志て之を離色志めたまふ三戰車の長等彼がイスラエルの王は車の中に自ら扶持て立ち薄暮までスリ亞人をさへをりしが日沒る頃にいたりて死り王は車の中に自ら扶持て立ち薄暮までスリ亞人をさへをりしが日沒る頃にいたりて死り射して我を軍中より出せと云此日戰爭烈しくなりぬ、イスラエルの王の胸當と草摺の間に一箇の人何心なく弓を彎てイスラエルの王に言ひ身をめぐらして之と戰はんとせしむかへて之に言けるは汝惡き者を助けエホバを惡む者を愛してその家に至れりニ時お先見者ハナニの子エヒウヨシヤバテ王を出しあづら善事もまた汝の身に見ゆ即ち汝はアシラ像を國中に臨む三然に可かつ心を傾けて神を求むるありと○四ヨシヤバテはエルサレムふ歸りてそに住をりしダ復出てベエルシバよりエフライムの山地まで民

の間を行めぐりろの先祖の神エホバにこれを導き歸せり。五彼女たユダの一切の堅固なる邑に裁判人を立つ國中の邑々みな然り。六而して裁判人ふ言けるは汝等うの爲とてろを慎め、汝らは人のために裁判するふ非すエホバのために裁判するなり、裁判する時にはエホバ汝らと偕あります。七然を汝らエホバを畏き慎みて事をあせ、我らの神エホバは惡き事なく人を偏視ことなく賄賂を取ふと無き心なり。八ヨシヤバテまたレビ人祭司もよびイスラエルの族長を選びてエホバレムに置きエホバの事もよび訴訟を審判あむ、彼らはエルサレムふかへれり。九ヨシヤバテあれに命じて云く汝らエホバを畏れ眞實と誠心をもて斯おこなふべし。十凡てこの邑々に住む汝らの兄弟血を相流せる事または律法と誠命、法度と條例なぞの事につきて汝らに訴へ出ること有ゑ。これを諭してエホバに罪を犯さる者あめよ、恐らくは震怒あんちと汝らの兄弟けたまふべし。

第三十章 一この後モアブの子孫アンモンの子孫もよびオニア等ヨシヤバテと戰はんとて攻きたせり。二時に或人きたりてヨシヤバテに告て云ふ海の彼旁スリアより大衆汝ふ攻きたる、視よ今ハザツンタマルにありと、ハザツンタマルはすなはちエンゲデナリミ是においてヨシヤバテ懼れ面をエホバに向てうの助を求める。ユダ全國に斷食を布令あめたり。三四ユダ擧て集りエホバの助を求めてたり。即ちユダの一切の邑より人々きたりてエホバを求む。五時にヨシヤバテエホバの室の新しき庭の前あおいてユダとエル

サレムの會衆の中ふ立ち言けるは我らの先祖の神エホバよ汝は天の神にましますに非ずや異邦人の諸國を統たまふお非ずや汝の手には能力あり權勢ありて誰もなんちを禦ぐあと能ひきるに非ずや我らの神よ汝は此國の民を汝の民イスラエルの前より遂はらひて汝の友アブラハムの子孫ふ之を永く與へたまひしに非ずや八彼ら也此に住ミ汝の名のために此に聖所を建て言へりエジプトの劍疫病饑饉などの災禍わきらに臨まん時我らこの家の前に立て汝の前にをりうの苦難の中にて汝に呼號らん、志うして汝聽て助けたまさん、汝の名はこの家にあればなりと今アシモン、モアブおよびセイル山の子孫を視たまへ在昔イスラエル、エジプトの國より出きたれる時汝イスラエルに是等を侵さ止めたまはさりしゐを之を離れざりて滅ぼさり志ありされらダ我らに報ゆる所を視たまへ、彼ら汝おわれらに有た志めたまへ

る汝の產業より我らを逐ははんとす我らの神よ汝か乞らを鞫きたまぞざるや、我らは此斯く攻よせたる此の大衆に當る能力なく又爲ところを知らず唯汝を仰ぎ望むのとヨダの人々はうちの小者あよび妻子とともふ皆エホバの前に立をれり四時ふ會衆の中にてエホバの靈アサフの子孫たるレビ人ヤハシエルに臨めり、ヤハシエルいゼカリヤの子セカリヤはベナヤの子ベナヤハシエルの子エイエルいマッタニヤの子なりヤハシエルすな之ち言なるいユダの人衆およびエルサレムの居民ならびにヨシヤバテ王よ聽べし、エホバかく汝らに言たまふ此大衆のため懼る勿を憚くなかれ、汝らの戰に非ずエホバの戰ありばなりなんちら明日彼らの所に攻くだき、彼らいザツの坡より上り来る汝らエルエルの野の前ある谷の口にて之ふ遇んその戦争にい汝ら戰ふにあよをす、ユダあよびエルサレムよ汝ら惟進みいで立汝

らともに在すエホバの拯救を見よ、懼る勿き慄くなかれ、明日彼
らの所に攻いでよエホバ汝らともに在せばなりと是におい
てヨシヤバテ首をさげて地に俯伏りユダの人衆ふよびエルサレ
ムの民もエホバの前に伏てエホバを拜す時にコハテの子孫お
よびコラの子孫たるレビ人立あたり聲を高くあげてイスラエル
の神エホバを讃美せりキかくて皆朝はやく起てテコアの野に出
ゆタリ其いづるふ當りてヨシヤバテ立て言けるハユダの人衆お
よびエルサレムの民よ我に聽け、汝らの神エホバを信せよ然心汝
ら堅くあらん、うの預言者を信せよ然心汝利あらん、三彼また民
と議りて人々を選び之をして聖き飾を着て軍勢の前に進ま玄め
エホバにむかひて歌をうたひ且これを讃美せしめエホバに感謝
し始むるに當りてエホバ伏兵を設けりのユダに攻きたれルアン
エホバに其恩恵は世々かぎりなしと言しむミその歌を歌ひ讃美をな
せよ、其處にてエホバに感謝せり是をもてその處の名を今日までベ
ラカ(感謝)の谷と呼ぶモ而してユダとエルサレムの人々みな各々
歸りたりヨシヤバテの後に玄たゞひ歡びてエルサレムに至れ

り、其はエホバ彼等を志てその敵の故によりて歡喜を得させたま
ひたをばなり云即ち彼ら瑟と琴および喇叭を合奏してエルサレ
ムに往てニ本バの室にいたる元諸の國の民エホバのイスラエル
の敵を攻撃たまひしことを開て神を畏れたれをヨシヤバテの
國は平穏ありき即ちろの神四方において之に安息を賜へり○三
五年の間エルサレムにて世を治めたり其母はシルヒの女にして之
名をアズバといふヨシヤバテはロの父アサの道にあゆみて之
を離きすエホバの目に善と觀たまふ事を行へり三然れども崇邱
はいまだ除くず又民はいまだろの先祖の神に心を傾けざりき
ヨシヤバテのその餘の始終の行為はハナニの子エヒウの書に記
さる、エヒウの事はイスラエルの列王の書に載す○ユダの王ヨ
シヤバテ後にイスラエルの王アハシアと相結べり、アハシアは大
に惡を行ふ者なりきヨシヤバテタルシシに遣る舟を造らんと
て彼と相結てエシオンケベルにて共に舟數隻を造れり云時にマ
レシヤのドダワの子エリエセルヨシヤバテにむかひて預言して
云ふ汝アハシアと相結びたれバエホバあんちの作りし者を毀ち
たまふと即ちろの舟は皆壊れてタルシシに往くことを得ざりき
ニヨシヤバテの子たるるの兄弟はアザリヤ、エヒエル、セカリヤ、ア
ザリヤ、ミカエルおよびシバテヤ、是みなイスラエルの王ヨシヤバ
テの子なりミその父彼らに金銀寶物の賜物を多く與へてダビデの邑
の守衛の邑々を與へけるが國はヨラムに與へたり、ヨラム長子あ
りけをばなり四ヨラムの父の位に登りて力つよくなりタレバ
の兄弟等をしてとぐく劍にかけて殺し又イスラエルの牧伯等

數人を殺せり○ヨラムは三十二歳の時位に即エルサレムにて八年の間世を治めたり。彼ハアハブの家のなせるごとくイスラエルの王等の道にあゆめり、アハブの女を妻となした色バナリ。斯か色エホバの目に悪と觀たまふ事をなせしかどもセエホバ裏にダビデに契約をなし且彼とろの子孫とに永遠に光明を與へんと言たまひし故によりてダビデの家を滅ぼすことを欲み給ひざりき。ヨラムの世にエドム人叛きてユダの手に服せず自ら王を立たれバヨラムその牧伯等あよび一切の戰車を立たぎり。夜の中に起いでて自己を圍めるエドム人に服せしとを欲み給ひざり等を撃り。エドム人の斯叛きてユダの手に服せしとを欲み給ひざりまで然り此時にあたりてリブナもまた叛きてユダの手に服せずなりぬ。是れヨラムの先祖の神エホバを棄てたるに因てなり。シボ今日またユダの山々に崇邱を作りてエルサレムの民に姦淫をおこなはせり。ユダの王アサの道にあゆます。父ヨシヤバテの道にあゆます。またユダの人とエルサレムの民をしてアハブの家の姦淫を行ひしめます。汝の一切の所有を撃たまふべし。汝のまた姦淫の疾を得て大病となり、うの疾日々に重りて臓腑つひに墜んと。即ちエホバヨラムの故にエホバ大なる災禍をもて汝の民汝の子女汝の兄弟等を殺せり。汝の父の家の者にて汝に愈れるところの汝の兄弟等を殺せり。汝の心を振起したまひければ。其の妻等を殺せり。汝の民をしてアハブの姦淫を行ひしめます。汝の父の家の者にて汝に愈れるところの汝の子女汝の兄弟等を殺せり。汝の心を攻させんとてエテオビアに近きところのペリシテ人とアラビア人の心を振起したまひければ。其の妻等を殺せり。汝の家に在ところの貨財を盡く奪ひ取りまたヨラムの子等をも携へ去り、是をもてうの末子エホアハズの外に一人

も遣きる者あかりき。此もろくの事の後エホバ彼を擊て臓腑に愈さる疾を生ぜしめたまひければ。九月日を送り二年を経るにあよびてうの臓腑疾のために墜ち重き病苦によりて死り、民かれの先祖のために焚物をなせし如く彼のためにには焚物をなさざりき。彼は三十二歳の時位に即き八年の間エルサレムにて世を治め、終に薨去れり。之を惜む者あかりき。人衆こ色をダビデの邑ふ葬れり。但し王等の墓にはあらず。

第一十二章

エルサレムの民ヨラムの季子アハシアを王とあして之に繼しむ。其は曾てアラビア人とともに陣營ふ攻きたりし軍兵うちの長子をことく殺したれとなり。是をもてユダの王ヨラムの子アハシア王となれり。アハシアは四十二歳の時位ふ即きエルサレムにて一年の間世を治めたり。その母ルカムの女ふして名をアタリヤといふ。ニアハシアもまたアハブの家の道に歩めり。

ヨラムはそのスリアの王ハザエルと戦ふにあたりてラムにて負たる傷を療さんとてユズレルふ歸れり。ユダの王ヨラムの子アザリヤはアハブの子ヨラムが病を負せたり。是にあいてヨラムはアハブの子ヨラムを訪ふて害に遇しは神の然らあめたまへるなり。即ちアハシアは來り居てヨラムとともに出てニムシの子エヒウを逐へたり。エヒウはエホバの義ふアハブの家を罰する。あめんとて膏を沃ぎたまひし者ありハエヒウアハブの家を罰する。

り、其母かきを教へて惡をなさしめたるなり。四即ち彼ハアハブの家のおとくふエホバの目の前ふ悪をおこなへり。其父の死し後彼かくアハブの家の者の教に恵たびひたき。終に身を滅ぼすふ至れり。五アハシアまた彼らの教に恵たびひたき。ヨラムの子ヨラムとともふギレアデのラモテふゆきてスリアの王アハブの子ヨラムとともふスリア人ヨラムふ傷を負せたり。是にあいてヨラムはアハブの子ヨラムを訪ふて害に遇しは神の然らあめたまへるなり。即ちアハシアは來り居てヨラムと一緒に出てニムシの子エヒウを逐へたり。エヒウはエホバの義ふアハブの家を罰する。

も遣きる者あかりき。此もろくの事の後エホバ彼を擊て臓腑に愈さる疾を生ぜしめたまひければ。九月日を送り二年を経るにあよびてうの臓腑疾のために墜ち重き病苦によりて死り、民かれの先祖のために焚物をなせし如く彼のためにには焚物をなさざりき。彼は三十二歳の時位に即き八年の間エルサレムにて世を治め、終に薨去れり。之を惜む者あかりき。人衆こ色をダビデの邑ふ葬れり。但し王等の墓にはあらず。

第一十二章

エルサレムの民ヨラムの季子アハシアを王とあして之に繼しむ。其は曾てアラビア人とともに陣營ふ攻きたりし軍兵うちの長子をことく殺したれとなり。是をもてユダの王ヨラムの子アハシア王となれり。アハシアは四十二歳の時位ふ即きエルサレムにて一年の間世を治めたり。その母ルカムの女ふして名をアタリヤといふ。ニアハシアもまたアハブの家の道に歩めり。

に方りてユダの牧伯等れよびアハシアの兄弟等の子等がアハシ
アに奉へるに遇て之を殺せり凡アハシアのサマリアに置きた
りしのエヒウこれを探求めければ人々これを執へエヒウの許に
曳きたりて之を殺せり但し、彼の心を盡してエホバを求めたるヨ
シヤバテの子なれどてこれを葬り、斯りしのバアハシアの家
の國を統治する力なくなりぬ○ア妓にアハシアの母アタリヤその
子の死たるを見て起てユダの家の王子をことく滅ぼしたり
シボナ王の女エホシバアハシアの子ヨアシを王の子等の殺さる
者の中より竊み取り彼とろの乳姫を夜衣の室にあきて彼をア
タリヤに匿した色バアタリヤの色を殺されりき、エホシバのヨラ
ム王の女アハシアの妹ふして祭司エホヤダの妻なり十三かくてヨ
アシハエホバの家に置きて彼らともふをること六年アタリヤ
國ふ王たりき

第一二三章 第七年にいたりエホヤダ力を強してエロハムの子
アザリヤ、ヨハナンの子イシマエル、オベテの子アザリヤ、アダヤの
子マアセヤ、シクリの子エリシヤバテなどいふ百人の長等を招き
て己と契約を結ばしむニ是にあいて彼らユダを行めぐりてユダ
の一切の邑よりレビ人を集めまたイスラエルの族長を招き
ルサレムふ歸りミ而してうの會衆みあ神の家ふおいて王と契約
を結べり、時にエホバの宣まひしことく王の子位に即べきなり四
斯なすべし汝ら祭司もよびレビ人の安息日ふ入きたる者三
の一門を守り三分の一の王の家に居り三分の一の基礎の門
に居り民のみなエホバの室の庭に居べし汝ら祭司と奉事をする
ビ人の外何人もエホバの家に入べからず、彼ら聖者なれど入
ことを得るなり、民のみあエホバの殿を守るべしセレビ人の
おの

く手ふ武器を執て王を繞りて立べし、家に入る者を心凡て殺す
べし、汝らは王の出る時にも入る時にも王どもに居きとハ是ふ
ちいてレビ人あよびユダの人衆ひ祭司エホヤダが凡て命じたる
如くに行ひ各々の手の人の安息日に入來べき者と安息日に出
ゆくべき者とを率ゐ居り、祭司エホヤダ班列の者を去せざればな
楯小楯を百人の長等に交し、一切の民にあるダビアルの鎧を手に執
て王の四周ふ立ち殿の右の端より殿の左の端におよびて各々武器を手に執
にそふて居あむ士斯て人衆王の子を携へ出し之に冠冕を戴りせ
証詞をわたして王となし、祭司エホヤダふよびろの子等これに膏
兵と王を讀む者との聲を聞きエホバの室に入て民の所に至り十三
歳に王の傍に立ち王の側に軍長と喇叭手立を

り亦國の民みな喜びて喇叭を吹き、謳歌者樂を奏し先だちて讀美
を歌ひをりしるバタリヤの衣を裂き叛逆なりと言
り當時に祭司エホヤダ軍兵を統る百人の長等を呼出ししてこゑに
言ふ彼を玄て列の間を通りて出玄めよ、凡て彼に従ふ者を心劍
をもて殺すべしと、祭司ハ彼をエホバの室に殺すべからずとて斯か
いへるありま是をもて之を殺せり○夫斯てエホヤダ己と一の契約
壇どろの像を打碎きバアルの室の職事を祭司マツタンを壇の前に殺せり
一切の民と王との間に亘れらるハ皆エホバの民とならんことを心門の
入口まで往玄めて其處にて之を殺せり○夫斯てエホヤダ己と一の契約
を結べりも是にあいて民みなハアルの室に殺すべからずとて斯か
エホヤダまたエホバの室の職事を祭司レビ人の手に委ね、モーセの律法に記
されたる所に玄たゞて歡喜と謳歌とをもてエホバの燔祭を獻する

たりて民の牧伯等をことごとく民の中より滅ぼし絶ち、るの物を凡てダマスコの王ふ遣れり。而してこの時スリアの軍勢は小勢ふ祖の神エホバを棄たるお故なり。斯か邑らヨアシを罰せり。五スリア人ヨアシふ大傷をあはせて遺去ける。ヨアシの臣僕等祭司エリヤダの子等の血のために黨をむすびて之に叛き之をろの床の上ふ弑して死玄めたり。人衆こゑをダビデの邑ふ葬きり。但し王の墓にい葬らざりき。二六黨をむすびて之に叛きし者ハアンモンの婦シメアテの子ザバテおよびモアブの婦シムリテの子ヨザハテなりき。二七ヨアシの子等の事ヨアシの告られし預言。および神の室を修繕し事なきハ列王の書の註釋に記さる。ヨアシの子アマシヤ。第一二十五章アマシヤハ二十五歳の時位ふ即きエルサレムにて。

二十九年の間世を治めたり。うの母はエルサレムの者にして名をエホアダンといふ。ニアマシヤハエホバの善と視たまふ事を行なひしきも心を全うしてこれを爲さりき。三彼國のあのダグ手ふ堅く立つにあよびてろの父王を弑せし臣僕等を殺せり。四然そろの子と女等を悉殺さずしてモーセの書の律法ふ記せるごとく爲り。即ちエホバ命じて言ひたましく父の故よりて殺さるべからず。各々おのれの身の故ふよりて殺さるべからず。三十萬を傭へり。七時に神の銀百の者を數かに附ふ。罪に附屬せしむユダとベニヤミンともに然り。且二十歳いふを得。六また百人の長のタルントをもてイスラエルより大勇士十萬を傭へり。七八の者をかれに詣りて言けるは王よイスラエルの軍勢をして汝どもかれに詣りて言けるは王よイスラエル。

サマリアよりベラホロンまでのユダの邑々を襲ひ人三千を擊て
ろし物を多く奪ふ○十四アマジアエドム人を戮して歸る時にセイ
ル人の神々を携さへ來り之を安置して己の神となしろの前に禮
拜をなし之に香を焚り是をもてエホバアマジヤにむかひて怒
を發し預言者をあれに遣として言しめたまひけるハ彼民の神々
ハ己の民を汝の手より救ふことを得ざりし者なるふ汝なにとて
之を求むるや矣彼かく王に語せる時王これにむかひて怒
の議宮とあせしや止よ汝なんぞ撃殺されんとするやヒ我等汝を王
預言者すなハち止て言り我知る汝この事を行ひて吾諫を聽いき
さるによりて神なんちを滅ぼさんと決めたまふと○モスケテユダ
の王アマジヤ相議りて人をエヒウの子エホアハスの子あるイス
ラエルの王ヨアシに遣毛し來れ我等たゞひに面をあそせんと言
しめけ毛を大イスラエルの王ヨアシユダの王アマジヤに言あく

りけるレバノンの荆棘かつてレバノンの檜樹に汝の女子を我
子の妻に與よと言あくりたること有しにレバノンの野獸とはり
てうの荆棘を踏たふせり汝のエドム人を擊破れりと謂ひ心に
たかぶりて誇る然バ汝家に安んじ居れ何ぞ禍を惹あこして自己
もユダもともに亡びんとするやと然るにアマジヤ聽ことをせ
ざりき此事の神より出たる者にて彼らをうの敵の手に付さん
ためなり是れ彼らエドムの神々を求めしに因る三是においてイ
スラエルの王ヨアシ上りきたりユダのベテシメシにてユダの王
アマジヤと面をあわせたりしが三時にイスラエルの王ヨアシ
各々うの天幕に逃かへりぬ三時にイスラエルに擊敗られて
アハズの子ヨアシの子なるユダの王アマジヤをベテシメシに執
へてエルサレムに携へゆきエルサレムの石垣をエフライムの門
より隅の門まで四百キユビト程を毀ちまた神の室の中にてオ

焚んとせり。も時ふ祭司アザリヤエホバの祭司たる勇者八十人を率ゐて彼の後ふ玄たがひ入り。十六ウシヤ王を阻へてこれに言けるはウシヤよエホバ。ふ香を焚く。とい汝のなすべき所にあらず。アロンの子孫ふ志て香を焚ために潔められたる祭司等のなすべき所なり。聖所より出よ汝の罪を犯せり。エホバ神なんちに榮を加へたまえ。ヒト十九是にあいてウシヤ怒を發し。香鑪を手にとりて香を焚んとせしひろの祭司ふむかひて怒を發し。香鑪を手にとりて香を焚んとせし。彼はエホバの室ふて祭司等の前にあたりて香壇の側におをる。祭司の長アザリヤおよび一切の祭司等彼を見玄ふ巳ふエホバの己を擊たまへるを見て自ら急ぎて出去り。三ウシヤ王。之の額ふ癱病生じたれを彼を其處より速ふいだせり。彼もまたエホバの死る日まで癱病人となり居しひろの癱病人となるにふよびて。別殿に住りエホバの室より斷れたれとなり。其子ヨタム王の

家を管理て國の民を審判り。三ウシヤのろの餘の始終の行為のアモツの子預言者イザヤこきを書記したり。三ウシヤの先祖等ともに寝りたき。彼ハ癱病人なりとて王等の墓に連接る地にござれを葬りて。ろの先祖等ともあらしむ。ろの子ヨタムこれに代りて王とあざり。

第二十七章 一 ヨタムハ二十五歳の時位に即きエルサレムにて十

六年の間世を治めたり。其母ハザドクの女にして名をエルシヤといふ。ニヨタムの父ウシヤの凡て爲たるごとくエホバの善と視たまふ事をあせり。但しエホバの殿にハ入ざりき。民ハ尙惡き事と築き増し。四ユダの山地に數箇の邑を建て林の間に城ふよび成樓を築けり。五彼アンモン人の王と戰ひ。これふ勝り。其年アンモンの子孤銀百ダラント、小麦一萬石、大麥一萬石を彼にあくきり。アンモ

邱の上、丘の上、一切の青木の下にて犠牲をさしき。香を焚り。是故にうの神エホバをスリアの王の手に付したまひてスリア人アムロの神エホバの前にれいてるの行を堅うしたるに因て權能ある者となれりセヨタムのろの餘の行爲るの一切の戰鬥およびうの行なせハイスラエルとユダの列王の書に記さるハ彼ハ二十歳の時位に即きエルサレムにて十六年の間世を治めたりヨタムの先祖等ともに寝りたればダビデの邑にこれを葬きり、うの子アハズこゑに代りて王となる。

第二十八章 一 アハズハ二十歳の時位に即きエルサレムにて十六年の間世を治めたりシボロの父ダビデと異にしてエホバの善と觀たまふ所を行はずニイスラエルの王等の道にあゆみ亦諸のバルのために像を鑄造り三ベントヒンノムの谷にて香を焚きろの子を火に焼きなせしてエホバのイスラエルの子孫の前より遂はらひたまひし異邦人の行ふところの憎むべき事に徹ひ四また崇年間世を治めたりシボロの父ダビデと異にしてエホバの善と觀たまふ所を行はずニイスラエルの王等の道にあゆみ亦諸のバルのために像を鑄造り三ベントヒンノムの谷にて香を焚きろの子を火に焼きなせしてエホバのイスラエルの子孫の前より遂はらひたまひし異邦人の行ふところの憎むべき事に徹ひ四また崇年間世を治めたりシボロの父ダビデと異にしてエホバの善と觀たまふ所を行はずニイスラエルの王等の道にあゆみ亦諸のバルのために像を鑄造り三ベントヒンノムの谷にて香を焚きろの子を火に焼きなせしてエホバのイスラエルの子孫の前より遂は

十五 上に名を挙げたる人々たちて俘虜を受取り掠取物の中より衣服を取てうの裸ある者に着せ之に靴を穿せ食飲を爲め膏油を沃ぎ等しろの弱き者をパ盡く驢馬ふ乗せ斯して之を棕櫚の邑エリコに導きゆきてうの兄弟に詣らえめ而してサマリアに歸色り○十六當時アハズ王人をアッスリヤの王等に遣はして援取を乞えむも其はエドム人また來りてユダを攻撃ち民を擄へて去たればなり十八ペリシテ人もまた平野の邑々をよびユダの南の邑々を侵してベテシメシ、アヤロン、ケデロラあよびシヨコとろの郷里テムナとろの郷里キムツとろの郷里を取て其處に住めり十九イスラエルの王アハズの故をもてエホバかくユダを與くしたまふ、其は彼ユダの中には淫逸なる事を行ひかつエホバふむかひて大に罪を犯しきれをなリ二十アッスリアの王テグラテビレセルは彼の所に來りし

エホバユダを怒りてこきを汝らの手に付したまひしほ汝らハ天
に達するはその忿怒をもて之を殺せりナ然のみならず汝ら今ユ
ダとエルサレムの子孫を壓つけて己の奴婢となさんと思ふ然モ
汝ら自身もまた汝らの神エホバに罪を獲たる身にあらずや士
は今我に聞き汝らの兄弟の中より擄へ來りし俘虜を放ち
是れふおいてエフライム人の長たる人々すあれチヨハナンの子ア
ザリヤ、メシレモテの子ペレキヤ、シヤルムの子ヒセキア、ハデライ
の子アマサ等戦争より歸れる者等の前に立ふさがりて十三之にい
ひけるは汝ら俘虜を此に曳いるべからず汝らは我らを志てエホ
バに懲を得せしめて更に我わらの罪愆を増んとす我らの懲は大に
して烈しき怒イヌラエルにのみまんとするなりと古是にかいて
兵卒等の俘虜と掠取物を牧伯等と全會衆の前に遣おきければ

をして打たよよとさ色しめ詫異とあらしめ胡慮とならしめたま
へり汝ら目に観るごとしあ即ち我等の父ハ劍に斃れ我らの男
ルの神エホバと契約を結べんとする意志ありの烈しき怒我ら
を離るゝこどあらん土我子等よ今ハ怠たる勿きエホバ汝らを擇え
びて己の前に立て事へしめ己に事ふる者となし香を焚く者とあ
したまひたればなりと○是においてレビ人起り即ちコハテの
子孫の中にはアマサイの子マハテおよびアザリヤの子ヨエル
アサフの子孫の中にはアブデの子キシおよびエハレルの子
エアン十三エリザバンの子孫の中にはジョンマの子ヨア
エリザベスの子孫の中にはシムリおよびエドトンの子孫の中
にてハセカリヤおよびシメイエドトンの子孫の中にて
ハシマヤおよびウシエル十五かれらうの兄弟を集へて身を潔め
エホバの言ふ依りて王の傳へし命令にあたがひてエホバの室の奥
めんとして入りたりまつたエホバの殿にありし汚穢れを受け
らせをレビ人にありし汚穢れを受て外にいだしキデロン
正月の元日にはエホバの室を潔むるに八日を費し正月の八日には
エホバの室の奥に入りてこゑを潔めエホバの室を潔めエ
ラエホバの室をこどく潔めまたエホバの室の奥に入りてエホバの室を潔め
いたりて之を終色り大のくて彼らヒセキヤ王の處に持いたるモ彼れ
ふよび供前ハス王の治世に罪を犯かして樂たりし切の器皿とを潔めたり
これを潔めエホバの室にあいてヒセキヤ王の處に持いたるモ彼れ
王蚤に起いで邑の牧伯等をあつめてエホバの室ふのぼり往

きニ 牡牛七匹、牡羊七匹、羔羊七匹、牡山羊七匹を牽きたらしめ國と聖所とユダのためにて血を罪祭とあしアロンの子孫たる祭司等に命じてこれをエホバの壇の上に獻げしむ三即ち牡牛を宰きバ祭司等ろの血を受て壇ふ灑ぎ、また牡羊を宰きバの血を壇に灑ぎ、また羔羊を宰きバの血を壇に灑げり三かくて人々罪祭の牡山羊を王と會衆の前に牽きたりタキバ彼らの上に手を接り三而して祭司て血を宰りうの血を罪祭として壇の上に獻げてイスラエル全國のために燔祭を獻ぐることを命じたるに因る三王レビ人をエホバの室に置きダビデおよび王の先見者ガドと預言者ナタンの命令に依たひて之に鑄鉢、瑟および琴を執ゑひ、是はエホバダビデの樂器をとり祭司之喇叭をとりて立つ三時にヒゼキヤ燔祭をさしげ始むるときエホバの歌をうたひ喇叭を吹きイスラエルの王ダビデの樂器をならし之はじめたり云あかして會衆ミな禮拜をあし謳歌者歌をうたひ事の終るにあよびて王あよび之と偕に在る者ミな身をかきめて禮拜をなせり三かくてまたヒゼキヤ王あよび牧伯等レビ人に命じダビデと先見者アサフの詞をもてエホバを讀美せしむ、彼等喜樂をもて讚美し首をさげて禮拜す三時にヒゼキヤこたへて言ける之汝らずでにエホバの室に犧牲あよび感謝祭を携へんために身を潔めたをば進みよりてエホバの室に犧牲あよび感謝祭を携へきたれど、會衆すなはち犧牲ふよび感謝祭を携へきたる、又志ある者はみな燔祭を携ふ三會衆の携へきたりし燔祭の數は牡牛七十、牡羊一百、羔羊二百、是をエホバふ燔祭と玄て奉つる者なり三また奉納物之牛六百羊三

祭を壇の上に獻ぐることを命ぜり、燔祭をさしげ始むるときエホバの歌をうたひ喇叭を吹きイスラエルの王ダビデの樂器をならし之はじめたり云あかして會衆ミな禮拜をあし謳歌者歌をうたひ事の終るにあよびて王あよび之と偕に在る者ミな身をかきめて禮拜をなせり三かくてまたヒゼキヤ王あよび牧伯等レビ人に命じダビデと先見者アサフの詞をもてエホバを讀美せしむ、彼等喜樂をもて讚美し首をさげて禮拜す三時にヒゼキヤこたへて言ける之汝らずでにエホバの室に犠牲あよび感謝祭を携へんために身を潔めたをば進みよりてエホバの室に犠牲あよび感謝祭を携へきたれど、會衆すなはち犧牲ふよび感謝祭を携へきたる、又志ある者はみな燔祭を携ふ三會衆の携へきたりし燔祭の數は牡牛七十、牡羊一百、羔羊二百、是をエホバふ燔祭と玄て奉つる者なり三また奉納物之牛六百羊三

千なりき。然るに祭司寡くしてろの燔祭の物の皮を剥つゝ。己と能ひざりけれども、の兄弟たるレビ人これを助けて工を終ふ。斯る間に他の祭司等も身を潔む。レビ人の祭司よりも心正しくして身を潔めたり。燔祭夥多しくあり。酬恩祭の脂かよびすべての燔祭の酒も然り。斯エホバの室の奉事備へれり云。この事俄なりしかども神かく民のために備をあしたまひしに因てヒセキヤかよび一切の民喜こべり。

第三十章 一茲にヒセキヤイスラエルとユダに遍ねく人を遣はしまた書をエフライムとマナセに書ふぐりエルサレムなるエホバの室に來りてイスラエルの神エホバふ逾越節を行はんことを勸むニ王すでにろの牧伯等あよびエルサレムにある會衆と議り二月をもて逾越節を行はんと定めたり。其は祭司の身を潔めし者足す。民またエルサレムに集らざりしに因て彼時ふあれを行ふ。

とを得ざれをなり。四王も會衆もこの事を見て善となし。即ちこの事を定めてベエルシバよりダントまでイスラエルお遍ねく宣布され玄めしエルサレムお來りてイスラエルの神エホバふ逾越節を行はんことを勸む。是はろの錄されたるごとくふことを行ふ事久し行もちてイスラエルとユダを遍ねく行めぐり王の命を傳へて云ふ。パア起歸色然バエホバアッスリアの王等の手より逃れて遺るところの汝らに歸りたまはん。セ汝らの父もよび兄弟の如くならざり。彼らの先祖の神エホバにむかひて罪を犯したをばれを滅亡に就あめたまへり汝らが見るごとし。然む汝らの父のがふがひて罪を犯したをばれを滅亡に就あめたまへり汝らが見るごとし。然む汝らの父のひとく汝ら項を強くせすしてエホバに歸服しその永久に聖別たまひし聖所ふ入り汝らの神エホバに事へよ。然れぞうの烈しき怒なんぢら

を離れん。汝ら若しエホバに歸ら。汝らの兄弟かよび子女の己を擄へゆきし者の前に矜憫を得て遂にまた此國ふりへらん。汝らの神エホバ。恩恵あり憐憫ある者にましませば汝らこれに起かへるにあひて、面を汝らに背くたまひじと。かくのごとく飛脚エフライム、マナセの國にいりて邑より邑に行めぐりて遂にセブルンまで至りしが人衆こきを嘲り笑へり。但しアセル、マナセふよびセブルンの中より身を卑くしてエルサレムに來りし者もあリ。またユダに於ては神うの力をいたして人々に心を一にせしり。王と牧伯等のエホバの言に依て傳へし命令を之ふ行へしむ。斯りしかべ二月にいたりて民醸いれぬパンの節をあてなはんと。斯て多くエルサレムに來り集れり。うの會はあはだ大なりき。彼等すなはち起てエルサレムふある諸の壇を取のうきて。これをキテロン川に投すて。二月の十四日に逾す。

越の物を宰れり、是において祭司等あよびレビ人は自ら恥ぢ身を潔めてエホバの室ふ燔祭を携へたり。大神の人モーセの律法ふ循ひ例に依て各々うの所ふ立ち而して祭司等レビ人の手より血を受て灑げり。十七時ふ會衆の中ふ未だ身を潔めざる者多うりタレをレビ人ろの潔くらさる一切の人々ふ代りて逾越の物を宰りてエホバふ潔め獻ぐ。十六また衆多くの民すなはちエフライム、マナセ、イサカル、ゼブルンより來りし衆多くの者未だ身を潔むる事をせず。十三の書錄さきし所ふ違ひて逾越の物を食へり、是をもてヒセキヤ云ふ。十二恵ふかきエホバよ、凡うろの心を傾けて神を求める先祖の神エホバを求むる者は仮令聖所の潔齋に循みをはざるとも願は。是を赦したまへど、エホバヒセキヤに聽て民なる喜悅をいだきて七日間酵入れぬパンの節をおこなへり、又

第二十一章

第三十一章
この事すべて終りしのば其處ふ在しイスラエル人
みなユダの邑々ふ出ゆき柱像を碎きアシラ像を斬たふしユダと
ベニヤミンの全地より崇邱と祭壇を崩し絶ちエフライム、マナセ
ふも及ぼして遂に還りて己の産業あいたれり○ニヒセキヤ祭司
のくろの邑々に班列を定めろの班列ふ玄たびひて各々にろの職
およびレビ人の班列を定めろの班列ふ玄たびひて各々にろの職
を行は志む、即ち祭司とレビ人を玄て燔祭かよび酬恩祭を獻げ玄
めエホバの營の門にふいて奉事めをあし感謝をあし讚美をあさ玄
め三また己の財産の中により王の分を出しこの燔祭のためふ之を出しき
朝夕の燔祭かよび安息日、朔日、節會あるの燔祭のためふ之を出しき
に記さるゝ如くす四彼またエルサレムふ住む民
に祭司とレビ人の律法に委ねあめんとてなり五其命令の傳はるや否や
ホバの律法を身を委ねあめんとてなり五其命令の傳はるや否や

イスラエルの子孫穀物、酒、油、蜜ならびに田野の諸の產物の初を多
く獻げまた一切の物の什一を夥多く携さへきたる六ユダの邑
々に住るイスラエルとユダの子孫もまた牛羊の什一ならびに
の神エホバに納むべき聖物の什一を携へきたりてこれを積疊ぬ
セ三月に之を積疊ねるみとを始め七月にいたりて之を終れり八
ヒセキヤかよび牧伯等きたりて其積疊ねたる物を見エホバと
司しとレビ人に問ひを祝せり九ヒセキヤ十ザドクの家より
リヤかれに應へて以來言ひけられ民エホバの室に積疊ねたる物の事を
始めしより以來我等飽までに食ひしうるの餘れを携さふる事
エホバの室に禮物を出しだすはなはだ多く
しエホバの民をめぐそたまひたれとなりうの餘れる所はなはだ多く
ごとく夥多しとヒセキヤエホバの家之内に室を設くる所かくの
命じけれども則ち此色を設け十三忠實にうの禮物什一および奉納物

レビ人十六ならびに名簿に載たるるの小き者るの妻るの女子なに盡く之を頒つ、會中すへて然り、即ち彼等潔白忠實に等のために邑々の郊地より居るアロンの子孫たる祭司にレビ人の中の名簿に載せり。また邑々の名指し選び祭司の中の男ふよヒセキヤユダ全ぜん國ふスのでとく爲し善事、正き事、忠實なる事をうしつき誠命につきて行成就たり始めてろの神を求め玄工れ悉く心をつくして行ひてこれを行へり三凡てろの神の室の職務につき律法にスリヤの王セナケリブ來りてユダに入いり堅固ある邑々ありし後アルサレムに攻むかはんとするを見、ろの牧伯等ふよび勇士等とて陣を張り之を攻取んとす。ヒセキヤが此等の事を行あひ且つ忠實かヨリアの王セナケリブ來りてユダに入いり堅固ある邑々ありし後ア

第三十二章

かかる勿色説かさる勿れまた彼を信ずる勿色何の民何の國のか
神もろの民を我手また我父祖の手より救ひ出すことを得ざり
しなれを況て汝らの神いかでう我手より救ひ出すことを得ざり
の僕あもべヒセキヤを誹れりモセナケリブの臣僕等この外にも多くエホバ神よびろ
手より救ひ出さじと云ふ彼ら遂に大聲を擧げユダヤ語をもて石垣いはきをかきふくりてイス
り救ひ出さじと云ふ彼ら遂に大聲を擧げユダヤ語をもて石垣いはきをかきふくりてイス
の上なるエルサレムの民に語そのいひ之こゝを威しきつゝを論するがごとくせりニこれ是ふよりて人ひとの手の
作なる地上の民の神々かみぐみを論するがごとくせりニこれ是ふよりて人ひとの手の
キヤ王よびアモツの子預言者よげんしゃイザヤともふ祈いのの禱のりて天に呼はり
けれどニエホバ天の使つかひ箇ひきを遣はしてアッスリア王の陣營ぢんえいふある
けれどニエホバ天の使つかひ箇ひきを遣はしてアッスリア王の陣營ぢんえいふある

れを葬りユダの人々ふよびエルサレムの民みな厚くろの死を送
れり、其子マナセこれに代りて王となる
第三十三章 一 マナセは十二歳の時位に即きエルサレムにて五十
五年の間世を治めたり。彼はエホバの目ふ悪と觀たまふことを
爲しイスラエルの子孫の前よりエホバの逐はらひたまひし國人
の行ふところの憎むべき事ふ微へり。即ちうの父ヒゼキヤの毀
ちたりし崇邱を改ため築き諸の像を作り天の衆群を拜みて之に事へ
き五天の衆群のためふエホバの室の兩の庭に壇を築き。またエホバの我名は永く
シヒンノムの谷ふてろの子女に火の中を通らせかう占トを行ふ。
エルサレムに在るべしと宣まひしエホバの室の内に數箇の壇を築き。またエ
ホバの目ふ悪と視たまふ事を多く行あひてろの震怒を惹起せり
七彼またろの作りし偶像を神の室に安置せり、神此室につきて
ビデどうの子ソロモンに言たまひし事あり云く我この室と我わ
イスマエルの諸の支派の中より選びたるエルサレムとふ吾名を
永く置んハ彼らもし我わ凡て命ぜし事すなはちモーセの傳へし
に定めし地より我て乞の足を重てうつさじとたマナセのくユダ
すべての律法と法度と例典を謹みて行は。我の汝らの先祖のため
とエルサレムの民とを迷はして惡を行は志めたり。其状イスラ
ルの子孫の前にエホバの滅ぼしたまひし異邦人よりも甚だじ
エホバマナセふよびろの民を諭したまひし。エホバアッスリアの王の軍勢の諸將をこれに攻來ざ
りき。是をもてエホバアッスリアに曳けり。然るに彼患難に罹るによびてろの神エホバを和めるの先祖の神の前に大に身を卑くして主神に祈りけ
バビロンに曳けり。然るに彼患難に罹るによびてろの神エホバを和めるの先祖の神の前に大に身を卑くして主神に祈りけ
水巴

第三十三章 一 マナセは十二歳の時位に即きエルサレムにて五十
五年の間世を治めたり。彼はエホバの目ふ悪と觀たまふことを
爲しイスラエルの子孫の前よりエホバの逐はらひたまひし國人
の行ふところの憎むべき事ふ微へり。即ちうの父ヒゼキヤの毀
ちたりし崇邱を改ため築き諸の像を作り天の衆群を拜みて之に事へ
き五天の衆群のためふエホバの室の兩の庭に壇を築き。またエホバの我名は永く
シヒンノムの谷ふてろの子女に火の中を通らせかう占トを行ふ。
エルサレムに在るべしと宣まひしエホバの室の内に數箇の壇を築き。またエ
ホバの目ふ悪と視たまふ事を多く行あひてろの震怒を惹起せり
七彼またろの作りし偶像を神の室に安置せり、神此室につきて
ビデどうの子ソロモンに言たまひし事あり云く我この室と我わ
イスマエルの諸の支派の中より選びたるエルサレムとふ吾名を
永く置んハ彼らもし我わ凡て命ぜし事すなはちモーセの傳へし
に定めし地より我て乞の足を重てうつさじとたマナセのくユダ
すべての律法と法度と例典を謹みて行は。我の汝らの先祖のため
とエルサレムの民とを迷はして惡を行は志めたり。其状イスラ
ルの子孫の前にエホバの滅ぼしたまひし異邦人よりも甚だじ
エホバマナセふよびろの民を諭したまひし。エホバアッスリアの王の軍勢の諸將をこれに攻來ざ
りき。是をもてエホバアッスリアに曳けり。然るに彼患難に罹るによびてろの神エホバを和めるの先祖の神の前に大に身を卑くして主神に祈りけ
バビロンに曳けり。然るに彼患難に罹るによびてろの神エホバを和めるの先祖の神の前に大に身を卑くして主神に祈りけ
水巴

れべろの祈禱を容るの懇願を聽きこれをエルサレムに携へか
へりて再び國に蒞ま來めたまへり是によりてマナセエホバは誠
に神にいますと知り○古ての後のれダビアの邑の外にてギホン
の西の方なる谷の内に石垣を築き魚門の入口までに及ぼし又オ
ペルに石垣を環らして甚だ高く之を築き上げユダの一切の堅固さ
なる邑に軍長を置き十五またエホバの室より異邦の神々かよび偶
像を取除きエホバの室の山とエホバの室より自ら築き上げ
壇を取る所きて邑の外に投すて十六エホバの壇を修復ひて酬恩祭
および感謝祭をうの上に獻げユダに命じてイスラエルの神エホ
バに事へ志めたり十七然れども民は猶崇邱にて犠牲を獻ぐる事
を爲り但しろの神エホバに而己なりき十八マナセの名をもて彼れ
ろの神みなせし祈禱およびイスラエルの神エホバに事へ志めたり
を諭せし先見者等の言はイスラエルの列王の言行錄に見ゆ
たろの祈禱を爲たる事うの聽れたる事うの諸の罪愆の身を卑
くする前に崇邱を築きてアシラ像および刻たる像を立たる處々
あとは水ザイの言行錄の中ふ記さる二十マナセうの先祖とよもに
寝むりたれべ之をうの家に葬れり其子アモンこれふ代りて王とな
世を治めたり三彼は其父マナセの爲しおとくエルサレムにて二年の間
觀みたりまふ事を爲り即ちアモンうの父マナセドアセグ作りたる諸の刻た
る像に犠牲を獻げてこれふ事へ三うの父マナセが身を卑くせし
るを爲り即ちアモンうの父マナセドアセグ作りたる諸の刻た
る○ニアモンは二十二歳の時位に即きエルサレムにて二年の間
おとくエホバの前に身を卑くする事とを爲ざりき斯このアモン
おとくエホバの前に身を卑くする事とを爲ざりき斯このアモン
愈うの愆を増たりしが居うの臣僕黨を結びて之に叛きこれを
おとくエホバの前に身を卑くする事とを爲ざりき斯このアモン
の家の内に弑せり三然るに國の民うちの黨を結びて之に叛きこれを
さし者等を盡く誅し而して國の民うちの子ヨシアを王とあして
の後を嗣ぐ
ものどもつが嗣ぐ
ものどもつが嗣ぐ

第三十四章

ヨシアハ八歳の時位に即きエルサレムにて三十一

年間世を治めたりニ彼ハエホバの善と觀たまふ事を爲しろの

父ダビデの道にあゆみて右にも左にも曲らざりきミ即ち尙若か

りしるをもろの治世の八年にろの父ダビデの神を求むることを始めるの十二年にハ崇邱、アシラ像刻たる像、鑄たる像、あそを除き

てユダとエルサレムを潔めたり六またマナセ、エフライム、シメオンおよびナフトリの荒たる邑々にも斯なし七諸壇を毀ちアシラ像あよび諸の雕像を微塵に打ち碎きイスラエル全國の日の像を盡く砍たふシラ像れよびナフタリの荒たる邑々に立る日の像を斫たふシラ像れよび諸の雕像を打ち碎きイエスラエルの壇の上に焚き斯してユダ

とエルサレムふ歸りぬ○ハヨシアの治世の十八年にいた

りて己に國と殿とを潔め了りうの神エホバの室を修繕ひしめん
とてアザリヤの子シヤバン、邑の知事マアセヤおよビヨアヘズの
子史官ヨアを遣へせり九彼ら祭司の長ヒルキヤの許に至りてエ
ムおよび其餘の一切のイスラエル人あらびにユダとベニヤミン
水バの室に入し金を交せり、是れ門守のレビ人ダグマナセ、エフライ
ムの人あよびエルサレムの民の手より歎めたる者ありナやダテエ
等エホバの室ふて操作どころの工師等の手にこれを交しユダの王等が壊りた
めしむ即ち木匠ふよび建築者に之を交しユダの王等が壊りた
る人々のために琢石および骨木を買しめ梁木をとゝのりしむ
その人々忠實に操作けり、その監督者ハメテリの子孫たるヤハテ、
オバデヤおよびコハテの子孫たるゼカリヤ、メシユラムなどのレ
ビ人なりき、彼等すなひち之を主せる、又樂器を弄ぶに精巧なるレ

命じて言ふニ汝ら往てこの見當りし書の言ふつきて我のためま
たイスラエルとユダに遣せる者等のためにエホバに問へ、我らの
先祖等ハエホバの言を守らず凡て此書に記されたる所を行ふこ
とを爲ざりしに因てエホバ我等に大なる怒を斟ぎ給ふべけれを
ありと是においてヒルキヤふよび王の人々シヤルムの妻なる
女預言者ホルダの許に往り、シヤルムハルハスの子なるテクワ
邑ふ住みをれり彼等すなえちホルダに斯と語りしカペ三ホルダ
の子にして衣裳を守る者なり、時にホルダハエルサレムの第二の
されに答へけるに告よ云エホバエルの神エホバカく語りしカペ
ふ記せられたる人に答へけるに告よ云エホバエルの神エホバ
遣さん云其の彼ら我を棄て他に神に香を焚きかく言ひたまふ汝らを我
る諸の物をもて我怒を惹起さんとしたればなり、この故にわが震
る諸の物をもて我怒を惹起さんとしたればなり、この故にわが震

怒りこの處に斟きて滅さるべし。されど汝らを遣はしてエホバに問しむるヨダの王。アハ汝ら斯いふべしイスラエルの神エホバかく言たまふ汝が聞る言ふつきてハモ汝此處と此あすむ者を責める神の言を聞し時ふ心やさしくして神の前ふ於て身を卑くし我前ニに身を卑くし衣服を裂て我前ふ泣たれば我もあんちに聽りとエホバ宣まふ元然を我あんちをして汝の先祖等に列あらしめん汝の安然に墓に歸することを得べし汝ハ我お此處と此に住む者に降すところの諸の災害を目に見ることを得べし汝ハ我お此處と此に住む者に復命まふしぬ○ニル是にあいて王人を遣へしてユダとエルサレムの長老をことごとく集め三而して王エホバの室に上りゆけり、ユダの人々エルサレムの民、祭司、レビ人および一切の民大より小見あたりし契約の書の言を盡く彼らの耳に讀聞せ三而して王己

の所立に立ちてエホバの前に契約を立てエホバにしたがひて歩き心を盡し精神を盡してろの誠命と証詞と法度を守り此書にしるさきたる契約の言を行へんと言ひ三エルサレムおよびベニヤミンの有ゆる人々をみな之に加へらしめたり、エルサレムの民すなむ事者者を盡く取のうきイスラエルの子孫に属する一切の人をしてろの神エホバにまつらしたり、ヨシアの世にある日の間ハ彼らの先祖の神エホバふ従ひて離れざりきかくてヨシアエルサレムの有ゆる人をしてろの神エホバにまつらしめたり、ヨシアの世にある日の間ハ彼らの先祖の神エホバふ従ひて離れざりき行へんとし正月の十四日ふ逾越の物を宰らしめニ祭司をしてろの神エホバにまつらしめ之を勵してエホバの室の務をなさしめ三またの職を執行なれせ之を勵してエホバの室の務をなさしめ三またエホバの聖者となりてイスラエルの人衆を誨ふるレビ人に言ふ

汝らイスラエルの王ダビデの子ソロモンが建たる家に聖契約の
置を放け再び肩に擔ふこそ有ざるべし然を今汝らの神エホバお
よびろの民イスラエルに事ふべし四汝らまたイスラエルの王ダ
ビアの書あよびその子ソロモンの書に本づきて父祖の家ふ循
ひろの班列に依て自ら準備をなし五汝らの兄弟なる民の人々の
宗家の區分に循ひて聖所に立ち之にレビ人の宗族の分缺ること
無らしむべし六汝ら逾越の物を宰り身を潔め汝らの兄弟のため
ふ準備をなしモーセが傳へしエホバの言のごとく行ふべしとセ
ヨシアすありち羔羊あよび羔山羊を民の人々に餉る其數三萬ま
た牡牛三千を餉る是みあ王の所有の中より出して其處に居る一
切の人のためふ逾越の祭物とあせるありハロの牧伯等も民と祭
司とレビ人ふ誠意より與ふる所ありまた神の室の長等ヒルキヤ、
セカリヤ、エヒエルも綿羊二千六百、牛三百を祭司ふ與へて逾越の
皮を剥りけれども綿羊五千、牛五百をレビ人ふ餉りて逾越の祭物となす
ふ付してエホバあ獻げしむモーセの書に記すはシマヤ、チタンエル並ふヘシヤビヤ、エイエル、ヨザバア
ふ行ふところも亦是のとしサ志として倒さめひ居りナやびて逾越の物を移して民の人々の父祖の家の区
ふ奔配れり古かくて後かれら自身のためと祭司等は燔祭と脂を獻げて夜ふ入た邑バ
其はアロンの子孫たる祭司等は燔祭と脂を獻げて夜ふ入た邑バ
なり是ふ因て斯レビ人自分のためとアロンの子孫たる祭司等の

祭物と爲すまたレビ人の長たる人々すなえちコナニヤおよび
ろの兄弟シマヤ、チタンエル並ふヘシヤビヤ、エイエル、ヨザバア
ふ付してエホバあ獻げしむモーセの書に記すはシマヤ、チタンエル並ふヘシヤビヤ、エイエル、ヨザバア
ふ行ふところも亦是のとしサ志として倒さめひ居りナやびて逾越の物を移して民の人々の父祖の家の区
ふ奔配れり古かくて後かれら自身のためと祭司等は燔祭と脂を獻げて夜ふ入た邑バ
其はアロンの子孫たる祭司等は燔祭と脂を獻げて夜ふ入た邑バ
なり是ふ因て斯レビ人自分のためとアロンの子孫たる祭司等の

ためふ備ふるあり十五アサフの子孫たる謳歌者等ハダビデ、アサフ、
ふ居り門を守る者等ハドトンの命ふ玄たゞひてろの擔任場
き、其の兄弟たるレビ人これべためふ備へたれバあり矣斯の
即ち其處ふしたゞひて逾越節を行ひエホバの獻祭の事
間醜いれぬばんの節を行へりエホバの子孫の時逾越節を行ひ七日
スラエルふて是のごとくに逾越節を行ひサムエルの日より以來イ
の諸王の中ふれヨシアが祭司レビ人あらびふ來りわつまれるユ
きダとイスラエルの諸人もよびエルサレムの民ともに行ひし如
逾越節を行ひし世如後のち
の十八年わんに行ひし者もの一人ひとりもあらずまこの逾越節すきじのいはをおこなム
逾越節すきじのいはをおこなムヨシア殿タマニをおこなムのへし後のち

エジプトの王子コユフラテの邊なるカルケミシを攻撃んとて上
り來りけるふヨシアこれを禦めんとて出往りニ是ふかいて子コ
使し者をかれふ遣はして言ふユダの王よ是あふ汝の與る所あらん
や、今日ハ汝を攻んとには非す我敵の家を攻んとするなり神われ
ふ命じて急ぎ玄む神われどともにあり汝神に逆ふことを罷ま
くハ彼なんちを滅ば玄たまんと三然るにヨシア面を轉して去
ことを肯之ず却てこれと戰かはんとて服装を變へ神の口より出
し子コの言を聽いれずしてメギドンの谷に到りて戰ひけるダニ
射手の者等ヨシア王に射中たれバ王ろの臣僕ふむかひて我を扶
け出せ我太瘍を負ふと言ひせたる次に車にあひてろの臣僕等かれを
きけるが遂に死たればうの先祖の墓に乗てエルサレムにつれゆ
車より扶けおろし其の引ひを扶ひて我を扶

エ ホバの室の貨財王どろの牧伯等の貨財あぞ凡て之をバビロンふ
携へゆき十九神の室を焚きエルサレムの石垣を崩しろの中の宮殿く
を盡く火にて焚きろの中の貴き器を盡く壊なへりニヤた劍をの
がれ志者等はバビロンに擄れゆきて彼處ふて彼どろの子等の臣
僕となりベルシヤの國の興るまで斯てありきニ是エレミヤの口
ふよりて傳はりしエホバの言の應せんがためなりき、斯ての地遂
満ぬ○三ペルシヤ王クロスの元年ふ當りエホバ襄ふエレミヤの
口ふよりて傳へたまひしろの聖言を成んとてベルシヤ王クロス
の心を感動したまひけれど王すなハチ宣命をつたへ詔書を出し
て徧く國中ふ告示して云く三ペルシヤ王クロス
エホバ地上の諸國を我ふ賜へり、ろの家をユダのエルサレムふ建ち神
ることを我ふ命ず凡ろ汝らの中もしろの民たる者あらむろの神

エホバの言を傳ふる預言者エレミヤの前に身を卑くせざりき十三
チブカデチザル彼をして神を指て誓は玄めたりしにまた之にも
叛けり、彼かくろの項を強くしろの心を剛愎にしてイスラエルの
神エホバに立かへらざりき古祭司の長等および民もまた凡て異
邦人の中ふある諸の憎むべき事ふ傲ひて太甚しく大罪を犯し
エホバのエルサレムふ聖め置たまへるろの室を汚せり十五其先祖
の神エホバその民どろの住所を恤ひ故に頻りふうの使者を遣はして之を諭したまひしに去彼ら神の使者等を嘲けり其御言
を輕んじろの預言者等を罵りたれをエホバの怒その民ふむかひ
て起り遂に救ふべからざるふ至れり十七即ちエホバカルデア人の
王を之ふ攻きたらせたまひければ彼その聖所の室おて剣をもて
少者を殺し童男をも童女をも老人をも白髪の者をも憐まさりき、
皆ひとしく彼の手ふ付したまへり十八神の室の諸の大今の器皿エ

エ木バの助を得て上りゆけ

歴代志畧下終

95-91140

立教大学図書館



95-91140